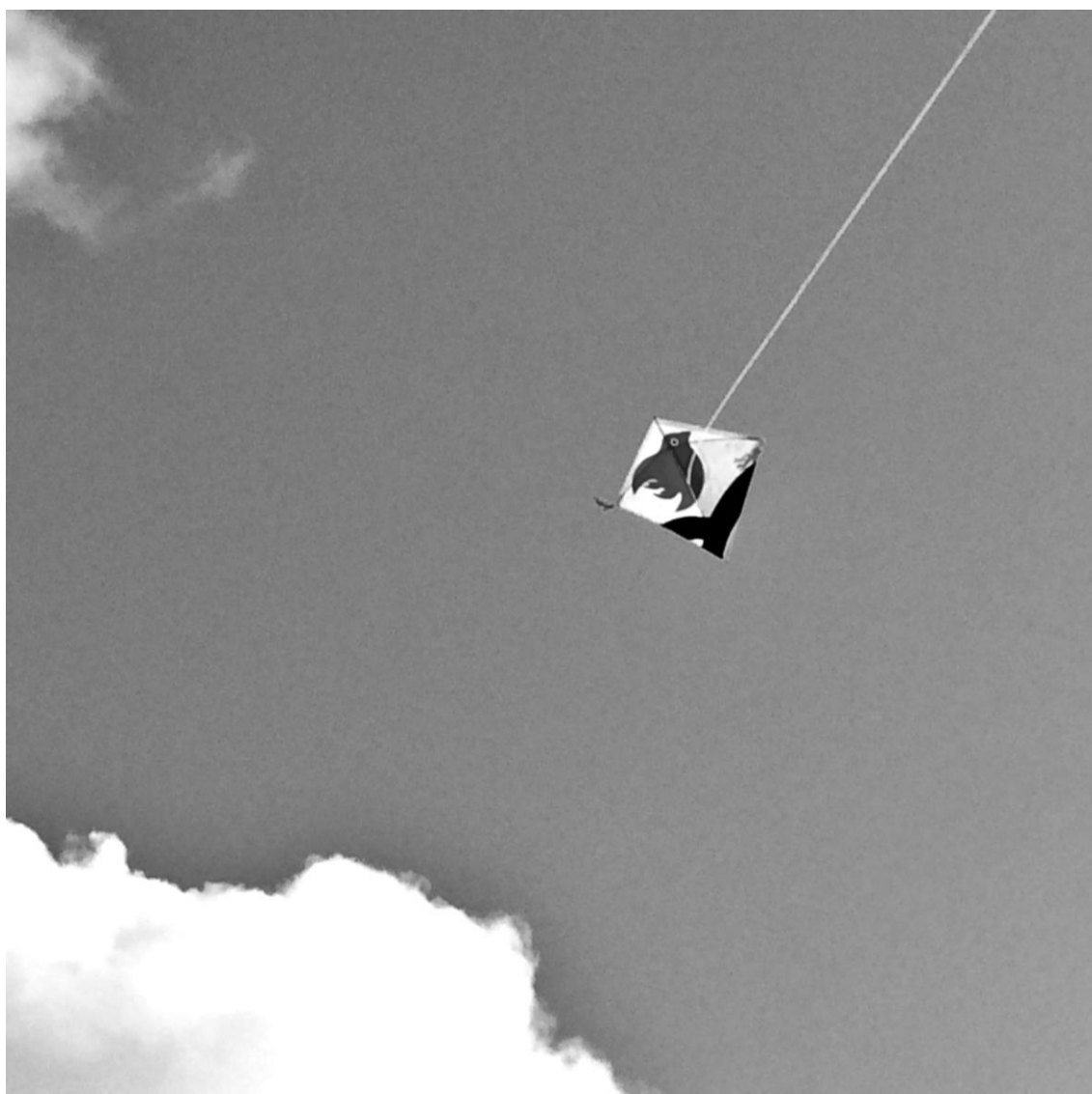


第 149 回日耳鼻長崎県地方部会

学術講演会 プログラム抄録集



日時：平成 27 年 12 月 5 日（土）15 時 30 分～

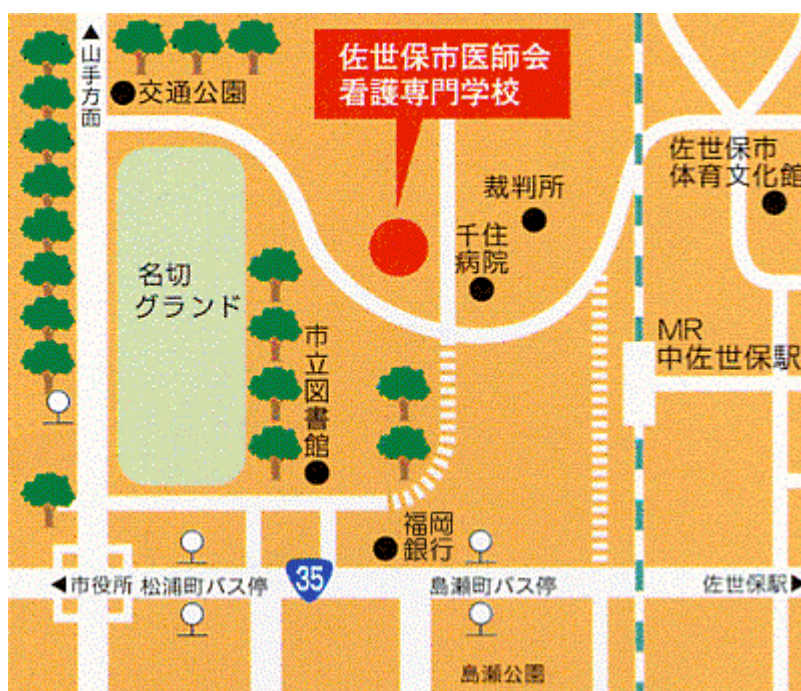
場所：佐世保医師会館（佐世保市）

〈ご案内〉

- ◆ 会場は、佐世保医師会館（3階）の大講堂です。
〒857-0801 佐世保市祇園町 257 番地 TEL0956-22-5900
(JR 佐世保駅より徒歩 25 分、松浦鉄道中佐世保駅より徒歩で 7 分)
- ◆ 専門医の方は学術集会参加報告書(平成 27 年度用)をご提出下さい。

〈演者の方へ〉

- ◆ 一般演題の口演時間は 7 分以内、討論は 3 分以内です。スクリーンは 1 面でプレゼンテーションには Microsoft Office Power Point 2013 を使用します。Mac 使用の方は Windows ファイルに変換して、文字ずれ・文字化けなど無いことを確認してから CD-R またはフラッシュメモリーでご持参下さい。スライド枚数に制限はありません。



★会長挨拶 (15:30～15:35)

高橋晴雄(長崎大)

第Ⅰ群 : (15:35～16:15)

座長 高野 篤 (長崎大)

1. 当科で経験した中咽頭滑膜肉腫の1例

○大野純希・陣内進也・坂口功一・前田耕太郎・金子賢一・高橋晴雄 (長崎大)
田畑和宏・田中伴典・木下直江・福岡順也 (同 病理部)

2. 喉頭に発生した神経内分泌腫瘍の1例

○花傘禮聡美・藤山大祐・西 秀昭・山本昌和・安達朝幸 (佐世保総合)
岩崎啓介 (同 病理診断科)

3. 遺残した魚骨異物によって頸部膿瘍をきたした1例

○山本昌和・花傘禮聡美・西 秀昭・藤山大祐・安達朝幸 (佐世保総合)

4. 超選択的動注療法を行った頸部食道癌の1例

○加瀬敬一・久永将史・奥 竜太・田中藤信 (長崎医療センター)

第Ⅱ群 : (16:15～16:55)

座長 吉田晴郎 (長崎大)

5. 錐体尖に生じたコレステリン肉芽腫の1例

○松本浩平・池永まり・原 稔・高橋晴雄 (長崎大)

6. 診断と治療に苦慮した上顎洞紡錘細胞癌の1例

○高島寿美恵・渡邊 毅・陣内進也・高野 篤・山口仁平・金子賢一・
高橋晴雄 (長崎大)
木下直江 (同 病理部)

7. 副鼻腔に発症した放線菌症の1例

○久永将史・田中藤信・奥 竜太・加瀬敬一 (長崎医療センター)

8. 先天性鼻腔狭窄症の1例

○吉見龍二・岩永 哲 (長崎市民)
山本昌和 (佐世保総合)

★長崎県耳鼻咽喉科病診連携研究会総会（17：00～17:30）

司会 長崎県耳鼻科病診連携会長 野田哲哉

・ 会計報告

長崎大学医局長 吉田晴郎

★連絡事項、その他

★閉会

★懇親会（18:00～19:30）

当日は地方部会終了後、同会場にて懇親会（無料）を予定しています。万障お繰り合わせの上、ぜひご出席ください。

1. 当科で経験した中咽頭滑膜肉腫の1例

○大野純希・陣内進也・坂口功一・前田耕太郎・金子賢一・高橋晴雄（長崎大）
田畑和宏・田中伴典・木下直江・福岡順也（同 病理部）

滑膜肉腫は多くが四肢の近傍に発生する軟部肉腫であり、軟部肉腫の約10%を占める。頭頸部領域に生じることは3~10%で、比較的稀とされる。今回我々は中咽頭後壁滑膜肉腫の1例を経験した。前医で当初咽後膿瘍を疑われ切開、その際の生検で上記診断となり当科紹介となった。当科術前精査では明らかな腫瘤を指摘できず、手術決断に苦慮したが、咽頭喉頭頸部食道摘出術を施行し、上記診断を確定した。

【参考文献】

綾仁悠介、他：頸部に発生した滑膜肉腫例. 耳鼻臨床 2013；106；929-933

2. 喉頭に発生した神経内分泌腫瘍の1例

○花牟禮聡美・藤山大祐・西 秀昭・山本昌和・安達朝幸（佐世保総合）
岩崎啓介（同 病理診断科）

神経内分泌腫瘍は消化管や肺に好発し、喉頭での発生は2.4%と稀である。

症例は51歳男性、嗄声を主訴に受診し、声門上部に腫瘤性病変を認めた。窒息のリスクがあるため、気管切開後に喉頭直達鏡下で腫瘍を摘出し、術後病理で神経内分泌癌と診断された。神経内分泌腫瘍はカルチノイドと呼ばれることもあり、また発生臓器によって分類が異なるため未だ混乱も認められる。それらの現状も踏まえ、若干の文献的考察を加え報告する。

【参考文献】

上田 大、他：喉頭に発生した非定型カルチノイド症例. 耳喉頭頸 2010；82；115-118

Barnes L., et al. : WHO Classification of Tumors. Pathology and Genetics of Head and Neck Tumors. IARC Press 2005；135-139

3. 遺残した魚骨異物によって頸部膿瘍をきたした1例

○山本昌和・花牟禮聡美・西 秀昭・藤山大祐・安達朝幸（佐世保総合）

耳鼻咽喉科診療において魚骨異物はよく遭遇する疾患である。今回我々は魚骨による頸部膿瘍の非典型例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

初診時、魚骨は声門よりやや上方の正中で矢状方向へ介在していたが内視鏡的に抵抗なく容易に摘出できたため帰宅とした。しかし5日後に頸部腫脹を来し再来されCTにて魚骨遺残による頸部膿瘍が疑われたため外切開による摘出を行った。

【参考文献】

佐藤公則：電子内視鏡による咽頭・喉頭・頸部食道異物摘出術. 口咽科 2008 : 20 ; 269-277

竹林慎治、他：非典型的口腔咽頭魚骨異物の3症例. 口咽科 2015 : 28 ; 65-69

4. 超選択的動注療法を行った頸部食道癌の1例

○加瀬敬一・久永将史・奥 竜太・田中藤信（長崎医療センター）

頸部食道癌に対しての超選択的動注療法の報告は少ない。中咽頭癌に対して全身化学放射線療法を行い、4年後に頸部食道癌の発生を認めた。放射線治療後であるため、術後の咽頭皮膚瘻など合併症が懸念され、機能温存の希望もあり、手術を回避し、化学放射線療法予定とした。しかし、全身化学療法にも耐容性がなく、超選択的動注療法を行うことで治療を全うした。有効な治療法の一つと思われ、若干の考察を加えて報告する。

【参考文献】

横山純吉、他：頭頸部進行癌に対する上腕動脈経由の超選択的動注法の適応とその有用性ーセルジンガー法不能症例に対する検討ー．日耳鼻 2012：115；625-631

5. 錐体尖に生じたコレステリン肉芽腫の1例

○松本浩平・池永まり・原 稔・高橋晴雄（長崎大）

コレステリン肉芽腫は赤血球の変性に伴うコレステリン結晶に対する貪食細胞による遺物反応として生じる肉芽で、側頭骨では隣接した含気洞との交通を絶たれた中耳腔、乳突洞・蜂巢、錐体尖に生じる。今回、我々は交通外傷が原因と考えられる嚢胞性の錐体尖コレステリン肉芽腫に対してナビゲーション下で嚢胞開放術を行い、乳突腔内へのドレナージチューブを留置することで良好な術後経過をたどった症例を経験した。

【参考文献】

和佐野浩一郎、他：錐体尖コレステリン肉芽腫への迷路下法による手術アプローチ. *Otology Japan* 2014 ; 24 ; 113-117

Sweeney AD., et al. : The Natural History and Management of Petrous Apex Cholesterol Granulomas. *Otology & Neurotology* (in press) 2015 : 29

6. 診断と治療に苦慮した上顎洞紡錘細胞癌の1例

○高島寿美恵・渡邊 毅・陣内進也・高野 篤・山口仁平・金子賢一・
高橋晴雄（長崎大）
木下直江（同 病理部）

上顎洞に発生した紡錘細胞癌を経験したので報告する。症例は43歳男性、繰り返す左鼻出血で外来での生検で診断がつかず、全身麻酔下で生検を兼ねた内視鏡による腫瘍切除術を施行した。その後の病理診断で紡錘細胞癌と診断された。紡錘細胞癌は頭頸部領域、特に副鼻腔では稀な組織型で鑑別が困難であり、標準的治療は確立しておらず治療法の選択に苦慮する。生検で診断のつきにくい病変では、紡錘細胞癌の可能性を念頭に置いて診療にあたるべきである。

【参考文献】

鈴木千晶、他：頭頸部紡錘細胞癌2例. 耳鼻臨床 2015；108；375-380

7. 副鼻腔に発症した放線菌症の1例

○久永将史・田中藤信・奥 竜太・加瀬敬一（長崎医療センター）

放線菌症は顔面頸部や胸腹部に多いが、口腔内常在菌であるにもかかわらず鼻・副鼻腔に発症することは非常にまれである。今回、副鼻腔に発生した放線菌症を経験したので文献的考察を踏まえて報告する。

症例は89歳男性。左下眼瞼の腫脹、排膿を主訴に受診。CT上は篩骨洞・上顎洞に軟部陰影や骨破壊を認め、悪性腫瘍、真菌症、副鼻腔炎などが疑われた。保存的加療で改善なく手術施行。病理で放線菌症の診断であった。

【参考文献】

積山幸祐、他：副鼻腔放線菌症例. 日鼻誌 2014；53；566-571

8. 先天性鼻腔狭窄症の1例

○吉見龍二・岩永 哲（長崎市民）
山本昌和（佐世保総合）

新生児・乳児期における呼吸障害の原因として先天性鼻腔狭窄症がある。喘鳴や呼吸障害、哺乳障害などをきたすため発育に影響を及ぼし、中には動脈酸素飽和度の低下などから気管挿管や気管切開される例もある。

今回我々は先天性鼻腔狭窄症による高度鼻閉、呼吸障害を呈した症例に対し鼻内ステント留置を行い、良好な経過をたどった症例を経験したため若干の文献的考察を加え報告する。

【参考文献】

益田博司、他：鼻咽頭管留置による保存的治療が有効であった先天性鼻腔狭窄症の一症例．日小呼誌 1999；10；15-19